

## 6 指導方法の工夫

分かりやすい授業づくりを心がけていても、一斉指導の中では理解が難しいケースがあります。その時には、まず、一斉指導の中でもできる一人ひとりの状態に応じた指導方法を検討することが大切です。

具体的には、「授業の見通しのもたせ方」「指示や発問の仕方」「教材の視覚化」「板書の工夫」「指導形態」等の視点があります。これらの視点に沿って、今までの指導方法を子どもに合わせてアレンジしてみると、そして、そのようなアレンジがなぜ必要なのかを考えていくことがよりよい工夫につながります。

また、指導方法の工夫を通して、子ども自らが、自分に合った学び方や支援の方法を理解し、実践できるようにすることも大切です。

確かめてみよう！

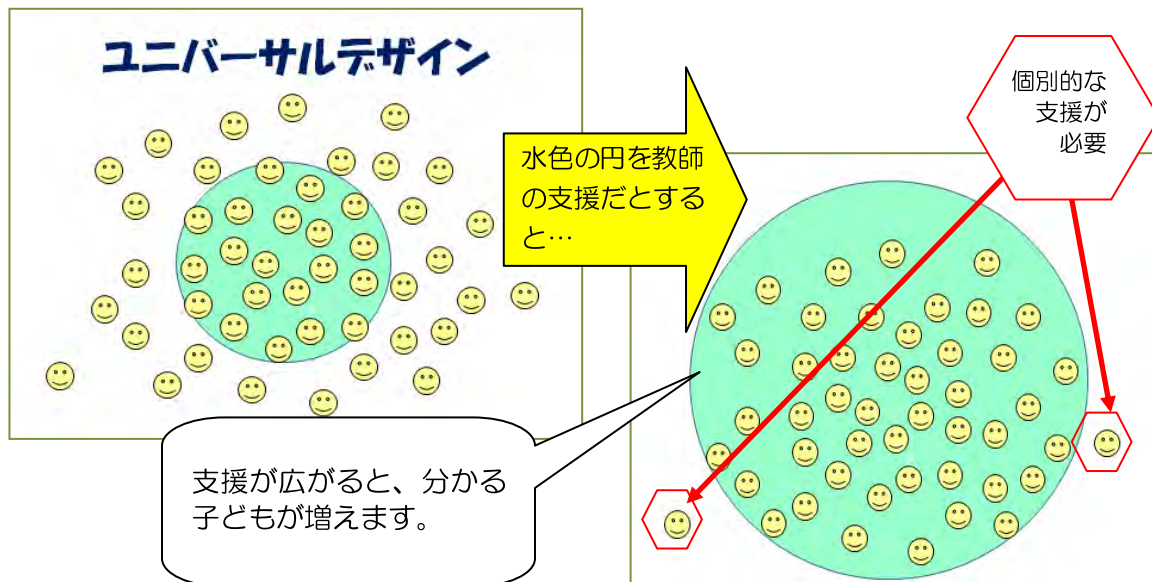
- ★単元名や本時の目当てが明示されている・・・・・・・・・・
- ★活動の内容や流れが分かるようになっている・・・・・・・・
- ★活動の時間を十分にとっている・・・・・・・・・・・・・・・・
- ★確認や質問ができる時間がある・・・・・・・・・・・・・・・・
- ★子どもの意欲を高める働きかけをしている・・・・・・・・
- ★振り返りのできる手立てや時間がある・・・・・・・・・・

## (1) 基本的な考え方

ユニバーサルデザイン（「UD」と表記することもあります）とは、「文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）」をいいます。できるだけ多くの人利用可能であるようにデザインすることを基本的なコンセプトとするこの考え方は、「誰にでも分かりやすい授業」を表すキーワードとなっています。ユニバーサルデザインの視点は、これまでの「より良い授業づくり」の視点を改めて整理したものともいえます。

ユニバーサルデザインは、どの学校でも共通した方法というよりも、学校の状況、子どもの状態等に合わせながら、「誰にでも分かる」という基本の考え方を学校独自に工夫していくこと、さらに、子どもの発達や環境の変化に応じて、見直していくことが必要となるものです。

ユニバーサルデザインの考え方で授業を組み立てれば、必ず全員が包括できるという万能なものではなく、多くの子どもを包括しつつ、さらに必要な子どもには個別的な支援を行っていくことが前提です。



### ユニバーサルデザインとは？ その1

#### ◆バリアフリー

高齢者や障害者などが社会生活をしていくうえで障壁(バリア)となるものを取り除く(フリー)こと。物理的、社会的、制度的、心理的、情報面でのバリアなど、全てのバリアを取り除くという考え方。

#### ◆ユニバーサルデザイン

あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等に関わらず、多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。

横浜市健康福祉局 「ヨコハマ・ふくまち.net」より

あると便利！

- たくさんの人が使いやすい
- 必要な人には、さらに支援を



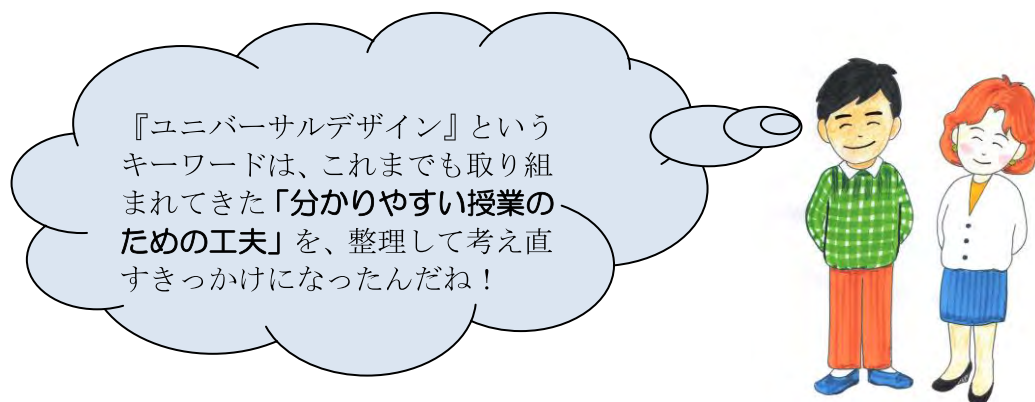
## 構造化

自閉症の特性を有する子どもの課題に対する有効な支援の考え方に「構造化」という視点があります。この構造化は、学習場面に限らず日常生活や社会生活を送る時にも有効な手段の一つになると同時に、すべての人にとっても、分かりやすいものになります。構造化を行う場合には、以下のことを明確にすることから始めます。

- 「いつ」やるのか
- 「何を」やるのか
- 「いつまでに」やるのか
- 「完成の形は」どうなのか
- 「どこで」やるのか
- 「どのように」やるのか
- 「どのくらい」やるのか
- 「完成したら」どうするのか

## 環境の整備

7 環境整備とも関連しますが、分かりやすい環境を整えることが大切です。一つひとつ指示を受けなくても、自分で判断できる手がかりが整えられていることも、分かりやすい授業につながります。



### ユニバーサルデザインとは？ その2

ユニバーサルデザインは、まちづくりのために 1980 年代から言われ始めた言葉です。その原則の意味から、教育・授業づくりにも取り入れられるようになりました。

バリアフリーとの違いは、障害を前提としない誰にでもやさしいまちづくりを目指していることです。『自閉症にやさしいまち、横浜』も、誰にでもやさしいまちを目指しています。

まちづくりにおけるユニバーサルデザイン七つの原則

- ① 誰にでも公平に利用できる（公平性）
- ② 使う上で柔軟性が高い（自由性）
- ③ 使い方が簡単ですぐ分かる（単純性）
- ④ 必要な情報がすぐ理解できる（分かりやすさ）
- ⑤ うっかりミスや危険につながらないデザイン（安全性）
- ⑥ 身体的な負担が少なく、楽に使用できる（省体力）
- ⑦ アクセス〔接近すること〕しやすいスペースと大きさを確保（使いやすさ）

## (2) 知的障害のある自閉症児童生徒の場合～指導案の構成の工夫から～

### A 特別支援学校（知的障害）

高等部 ○年	場所 体育館	時間 13:40～14:15	授業者: 9名
教科・題材名	総合的な学習の時間／キンボール		対象児童生徒: 15名
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に活動に参加し、楽しむことができる。</li> <li>・友だちと協力し合うことができる。</li> <li>・お互いに声を掛け合い、励ましたり、称えたりできる。</li> </ul>		
展開/時間	児童生徒の活動	支援の手立て	
0:40	○始めの挨拶 ○本時の活動内容を聞く	★1 ・視覚効果が抜群に高く、独特の動きで空中をさまようファッションブルで蛍光色の巨大なボールを使用して、生徒の興味や関心を高め、主体的な活動意欲を促す。	
0:45	○3チームに分かれてゲームを行う。 ・対戦チームを組みかえながら、全部で6つの組み合わせのゲームを行う。 ・対戦ごとに、お互いに礼をする。 ・ヒットやレシーブは、チーム内の全員で協力し合いながら行う。(★2) ・ヒット、レシーブ時に、チーム内でお互いに声を掛け合う。(★2, ★4)  ※詳しいルールやヒット、レシーブ時の掛け声については別紙のとおり	★3 ・ビブスを着用させ、自分の所属するチームを明確化させる。 ・各チームが、ゲーム上でどこ(ヒット、レシーブ、待機)を担当するか、対戦表で示す。 ・審判はチーム入れ替えの誘導や、得点の判定をカラーカードで示す。 ・ヒットチームの各自の立ち位置がわかるように床にマーキングをする。	
0:10	○ゲーム終了 ○成績発表		
0:15	○終わりの挨拶 ○用具等を片づける。 (ビブス、ベンチ、競技球など)		
自閉症生徒への配慮・工夫	<p>★1 主体的に活動に取り組むための工夫 [誰にでも対象として捉えやすく、生徒の興味や関心を湧かせる教材を使用する。]</p> <p>★2 協調性や社会性を育てるための工夫 [チーム内全員で協力していかないとゲームが成り立たないルール作りをしたり、お互いに声を掛け合うようにしたりする。]</p> <p>★3 ゲームを進行するうえで必要ないろいろな要素を視覚化して提示する。[カラーによるチームの区別、対戦表、ゲームプレイ上の立ち位置、視覚を活用したジャッジ、対戦表、得点表など]</p> <p>★4 ゲームを進行するうえで必要ないろいろなタイミング等を、音を手がかりにして判断できるようにする。[仲間同士の掛け声などを手掛かりに、ヒットやレシーブを全員で協力してできるようにする。]</p>		
面の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと協力しながらゲームに参加できたか。</li> <li>・友だちと一緒に声を掛け合うことができたか。</li> <li>・自ら主体的に活動に取り組むことができたか。</li> </ul>		
備考	本授業は、自閉症生徒を中心に、生徒全員の協調性や主体性を育てることを目的としている。そのうえで、自閉症生徒にとって、授業がわかりやすく、参加しやすいものになるように様々な配慮・工夫を行っている。		

◆ヒットするときは、4人がマーキングされた位置(図中の●)に立ち、ボールを支える。残りの一人がボールを押し上げるようにして打つ。(★2, ★3)

◆打つときに必ずコールを行う。「行くよ!」「せーの!どーん!」(★2, ★4)

◆ヒットがうまくできたら「ナイスヒット!」、失敗したら「ドンマイ!」と声をかけ合う。(★2, ★4)

◆レシーブに成功したら「ナイスレシーブ!」、失敗したら「ドンマイ!」と声をかけ合う。(★2, ★4)

本時のねらいを達成するための自閉症の生徒への配慮・工夫を、整理して記載している。

↓  
「児童生徒の活動」「支援の手立て」に具体的な内容を記載

### ○自閉症の児童生徒への配慮・工夫を明確に位置づけた指導案

### ○協調性や主体性を育てるための工夫をした授業

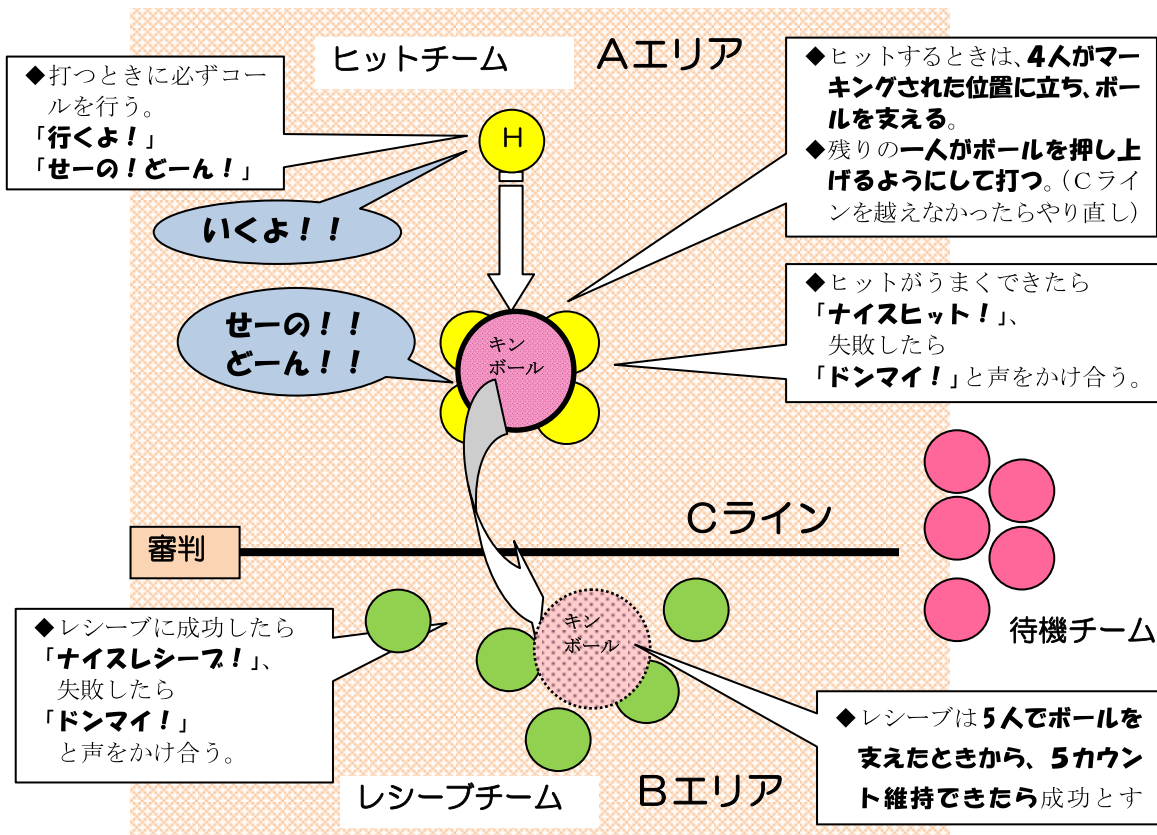
この授業では、自閉症の生徒を中心に、生徒全員の協調性や主体性等を育てることを目的として、学年でオリジナルに作ったルールでゲームを行いました。

## A特別支援学校オリジナルのキンボールのルール

- ① 3チームで順番にヒットする。
- ② ヒットチームは、AのエリアからBのエリアに向けてヒットを行う。
- ③ レシーブチームはBのエリア内でヒットチームの打ったボールを受ける。
- ④ 最高得点を得たチームが優勝！

※4回のヒットで1ゲームとし、6ゲームの合計得点で競う。  
 ※レシーブチームが失敗したら、ヒットチームに10点加点される。  
 レシーブチームが成功したら、レシーブチームに10点加点される。

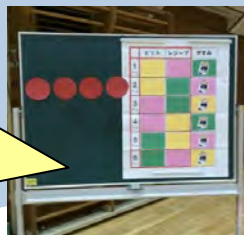
キンボールは、軽いけど表面がツルツルしていて、一人では持ち上げられません……。だからみんなで協力しないとね！



	ヒット	レシーブ	やすみ
1 ゲーム			
2 ゲーム			
3 ゲーム			
4 ゲーム			
5 ゲーム			
6 ゲーム			

上の図は、このゲームです

各チームのピフスと色を合わせた「対戦表」と「得点表」



### (3) 知的障害のない自閉症児童生徒の場合～指導案の構成の工夫から～

#### B 中学校

学校全体で共有できるように、年度当初に校内委員会で指導案の書式を確認しました。

(資料1)  
平成25年4月25日(木)  
特別支援教育委員会  
指導者 ○ ○ ○

- 1 単元名 「○○○○」  
※書く教科の特性で記述を変えてください。  
2 本時 平成24年○月○日 ○曜日 第○校時 ○年○組教室において  
3 本時の評価規準と観点

(本時にわかさせたい内容)～について、 (行動目標)～として

\* 本時の評価規準は 学習内容 + 行動目標  
\* ( ) には評価の観点を記述してください。

みんなに分かりやすくするための工夫点を「UDの視点」として表記することで、工夫が明確になりました！

#### 4 指導過程

<本校のユニバーサルデザインの視点>

- ①学習環境 ②学習内容・活動の見通し(めあてなど) ③板書などの視覚的な手がかり ④表現活動

※指導過程の中に上記の4点を意識した部分に **UD① 視点** を記述してください。

段階	学習活動・内容	学習活動を促す手立て・評価場面	形態	配時
つかむ	学習活動 ・～を聞く。～を行う。～を調べる。 ・～を作成する。～発表する。など ・～を確認する。～を知る。～を理解する。 ・～を考える。など 学習内容	・～を提示する。～を用意する。 ・～を指示する。～を活用させる。 UD① 学習環境整美の視点 UD② めあての確認の視点	一斉	5
	めあて	(本時にわかさせたい内容)～について、 (学習活動)～をしよう。		
つくる	学習活動1つに 学習内容1つ記述する	UD③ 視覚化の視点		
		UD④ 表現活動の視点		
まとめる		本時の評価		

主となる手立て

\*めあては 学習内容 + 学習活動

\*学習活動・内容、ねらい・手立てを明確にしてください。語尾の記述に気をつけてください。

\*教科の特性に応じた表現活動を記述してください。

\*形態は、個人・一斉・グループ・ペアなどで記述してください。

\*本時の評価する場面を**本時の評価**に記述してください。

\* パソコンに入力をお願いします。

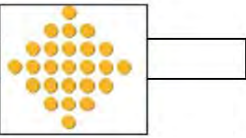
青ライン → 平成25年度 → 05 研究部 → 学習支援 → 25 指導案 → ○○○指導案○○○

教科名 名前

# C 小学校

導入の工夫  
興味関心を引く発問  
や具体物の提示

9 本時展開(4/9時間)

学習活動と児童の反応	留意点 ●支援 □評価	ユニバーサルデザインの視点と個別の配慮
1. 問題を把握する。 クッキーの数を求めよう		ユニバーサルデザインの視点と個別の配慮について、項だてによる明確化
2. 課題を把握する。 求め方を工夫して、一つの式に表わしましょう。		
<p>・どう囲めば、式にできるかな。</p> <p>・同じく。</p> <p>3. 各自考えを図にかき込み、立式する。</p> <p>ア <math>3 \times 8 + 1</math> 3個のまとまりが8つと、バラが1個。</p> <p>イ <math>5 \times 5</math> バラを1個ずつ動かして、正方形にする。</p> <p>ウ <math>7 \times 7 - 6 \times 4</math> 縦・横7個の正方形から、余分な6個のまとまりを減らす。</p>	<p>・前時までに学習した、一つの式にまとめるときに気をつけることを確認する。</p> <p>・今回は、ただ数えるのではなく、一つの式に表すことを強調する。</p> <p>(机間指導)</p> <p>●自力で考えることが困難な児童には、具体的なアドバイスを。 「同じ数ずつまとめて囲んでみよう」 「3個ずつ囲むと、いくつまとまりができるかな」</p> <p>主にT1が指導 ●机間指導をしながら、座席表に考えを記入していく。</p> <p>特に支援の必要な児童A・Bについての配慮点を明記</p>	<p>・図を全員に配布し、書き込みながら考えられるようにする。</p> <p>T1, T2 A児：説明が終わった時点で、まずはA児に寄り添い不安を取り除く。</p> <p>主にT2が指導 ・自力解決の際に、かこむこ意味がよくわかっていない児童を集め、簡単なドットを使って実際に操作しながら説明する。</p> <p><math>3 \times 3 = 9</math></p> <p>●B児・自力解決が困難な児童には、アのようにすでに囲</p>

既習事項の確認  
本時に関係のある大事な内容をヒントとして提示

特に支援の必要な児童A・Bについての配慮点を明記

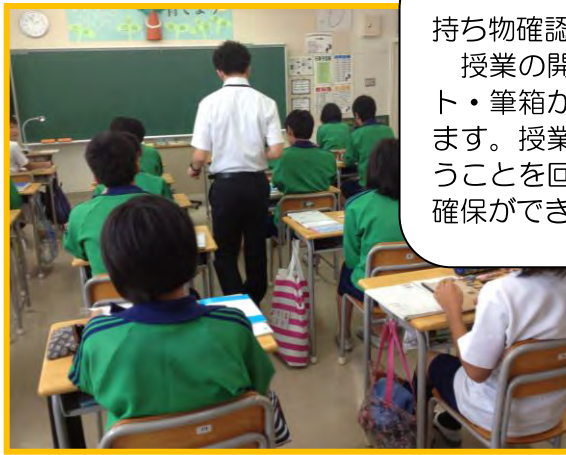
配慮点を授業に生かしやすいね!



# D 小学校

本時におけるA児に対する支援と評価	
○挿絵やセンテンスカードをもとに、理解を深められるようにする。(焦点化・視覚化)	
ちがいを考えよう。	
○ミニセンテンスカードをもとにペアで話し合わせることで、全員が発言する機会を作り助言し合えるようにする。(共有化) 【発言・カード】	
○選んだ根拠とともに発表させることで、考えを全体で共有する。(共有化)	
○センテンスカードを色別に分けておくことで、その違いに気づかせる。(視覚化)	
○黒板にセンテンスカードをまとめることで、あるきっかけによってがまくんの心情が変化したことに気づけるようにする。(視覚化・共有化)	【発言】
○「ああ。」という言葉の違いに限定して、気持ちの変化をとらえさせる。(焦点化)	【音読】

## (4) 指導方法と評価



### 持ち物確認

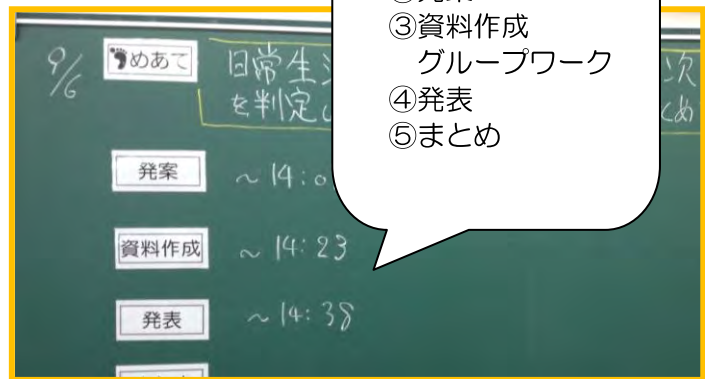
授業の開始前に、机の上に教科書・ノート・筆箱がそろっているかを確認しています。授業の途中で「〇〇がない」ということを回避できます。机間指導の動線確保ができているかも確かめられます。

活動の順序が書かれています。

- ①課題の確認
- ②発案
- ③資料作成  
グループワーク
- ④発表
- ⑤まとめ

板書計画が立てられています。その中に、視覚的な手がかりが意図的に組み込まれています。

- 大事なところに線を引く
- ノートに写すところを囲む
- 視写の時間をとる
- 日にちやページの記入するところを統一する



今日のめあてが書かれています。途中で教室に入っても、何をしているのかが分かります。



学習のルールが明示されています。

失敗しても大丈夫であることが分かります。

- 代替りのものがある
- 手伝ってもらえる
- 相談できる時間がある

分かりやすく、簡潔な話し方をしています。

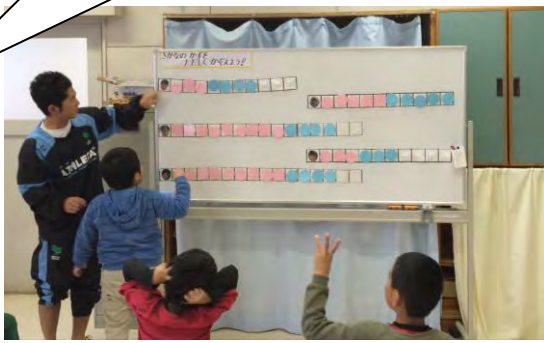




児童生徒の実態によって  
活動時間・内容にメリハリを付けます。

- 15分単位の授業構成
- 作業を入れる
- 出来る課題を設定
- クイズ的な要素を入れる
- 役割がある

プリントの拡大  
パソコンの活用  
読み上げソフト 等の活用



視覚的に数を確認しながら、ゲームの結果を出しています。

「どれが楽しかった？」  
活動の写真を指差しすることで、振り返りを行います。



## 評価

- 分からないことを発信できたことへの評価
- 結果でなく、取り組もうとした意欲を評価できる仕組み
  - ・チャレンジポイントの活用
- 評価の可視化・・・ シール、はなまる 等
- 複数の評価場面の設定
- 評価のポイントの明確化
  - ・児童生徒自身が何を評価されるのかが分かるように
- 評価の組合せ
  - ・発言 + 発表 + 作品 + ノート・・・
  - ・指導者による評価 + 児童生徒間の評価 + 自己評価
  - ・絶対評価、相対評価、個人内評価
- 間違いが許容される工夫
- 自ら間違いに気付く工夫
  - …間違いは授業、思考を活性化させるきっかけに！

授業を見た後の感想を一言メモにしてまとめると、授業改善につながりますね。



	よかった点	改善点
UD化の視点 ・環境整備 ・授業の工夫	式から考えさせる工夫が○ 考え方にネーミングをさせた 板書がみやすい	考え方のよさをもっと伝える ÷2の意味をもっとおさえる
学習形態の工夫 ・T T ・座席 ・グループ等	班を移動させることで…… T1とT2の約割りが明確だった	発表した後に子ども達からの意見…
評価の工夫	振り返りに写真を活用した 視覚的な評価があり、分かりやすい	まとめの時間が不十分

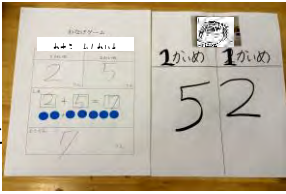


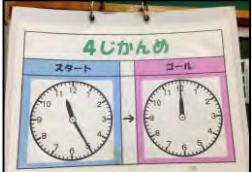
## (5) 教材・教具 ～実践校等の取組から～

自閉症の特性を有する児童生徒に分かりやすいようにと工夫された市販の教材や教具もありますが、先生方が工夫して作り上げた教材や教具は、児童生徒にとっても、先生にとっても大きな財産です。市販、自作を問わず、その多くは、自閉症の特性のない児童生徒にとっても有効なものです。

※参考となるHP

独立行政法人 特別支援教育総合研究所 教育コンテンツ

<http://www.nise.go.jp/cms/7,0,31.html>

ねらい	教材・教具	教科等	●活用の方法、その他のねらい 等
情報を得る	プリントの拡大 プリントの工夫	全教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>●単純に拡大</li> <li>●分割して拡大</li> <li>●行間や余白に配慮した拡大</li> <li>●興味がもてる工夫</li> <li>●図を描いたりシールを貼ったり等のスペースの工夫</li> <li>●意欲の向上</li> </ul> 
状況を理解する	4コマ漫画	自立活動 国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漫画を読んで説明する</li> <li>●吹き出しにセリフを入れる</li> <li>●語彙の拡大</li> </ul> 
	物語づくり	自立活動 国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1枚の絵を説明する</li> <li>●数枚の絵から話を作る</li> <li>●話の続きを作る</li> <li>●コミュニケーションスキルの向上</li> <li>●言語活動の充実</li> </ul>
	表情カード	自立活動 全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>●絵と写真のマッチング</li> <li>●絵と感情語のマッチング</li> <li>●感情への気付き</li> <li>●コミュニケーションスキルの向上</li> </ul> 
時間・空間を把握する	時計	全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>●始まりと終わりの時刻を明確にする</li> <li>●時間の管理</li> <li>●見通しをもった行動</li> </ul> 

時間・空間を把握する	足型など	全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>●整列の手がかりをつくる</li> <li>●体の位置の手がかりにする</li> <li>●ラインでも可</li> <li>●位置の把握</li> <li>●行動調整</li> </ul> 
	指マーク	全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マグネット式で自由に移動</li> <li>●矢印でも可</li> <li>●現時点の把握</li> <li>●注目点の明確化</li> </ul> 
	枠取り	全教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実物投影機を活用しやすくする</li> <li>●ビニルテープでプリントの大きさを明示</li> <li>●位置の把握</li> <li>●発表の効率化</li> </ul> 
見通しをもつ	ミニホワイトボード	全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>●移動ができ、必要なときに提示できる</li> <li>●同じパターンによる安心できる手がかり</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>『明日の予定』</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>『今日の予定』</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>『本時の流れ』</p>  </div> </div>
	写真カード	全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>●具体物や扱い方を示す</li> <li>●振り返りにも活用</li> <li>●自己選択</li> </ul> 
	携帯用カード	全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カードを小型し、生活や学習のいろいろな場面で手軽に使えるように工夫</li> </ul> 

**(6) 「指導形態」** ～学習内容による学習の場の工夫～

①	<p>学級集団での一斉学習・・・先生の話聞きながら、授業を受けます。  <b>【配慮】</b> 話が聞きやすい、個別の指示が出しやすい 等だけでなく、光や音などの刺激に反応しやすい場合にも、座席の位置を工夫することが望まれます。          前列にモデルとなる児童生徒がいることが、視覚的な支援となることもあります。</p>
②	<p>T・Tによる指導・・・・・・Team Teaching の略。担任（担当者）のほかに指導者や支援者が入る複数による指導です。  <b>【配慮】</b> 学年が上がるにつれ、自分だけに支援者がつくことに抵抗を示すようになります。サブティーチャーとして入るときには、全体への支援をしつつ、特に支援が必要な児童生徒への支援を行います。</p>
③	<p>小グループ指導・・・・・・4～6人程度で話し合い等の活動を行います。  <b>【配慮】</b> 必要に応じて、グループの構成メンバーに配慮をします。          友達任せになったり、活動の輪に入れなかったりする場合もありますので、机間指導の中で十分に配慮することが望まれます。</p>
④	<p>二人組・・・・・・隣同士などで、話し合い等の活動を行います。</p>
⑤	<p>個の学習・・・・・・課題に一人で取り組みます。そのあと、グループや学級全体で発表をすることもあります。  <b>【配慮】</b> 取り組むべき課題が分からなくならないように、言語指示と合わせて、視覚的に確認できるように工夫します。</p>
⑥	<p>学年での学習・・・・・・学年全体で活動します。運動会・体育祭の練習などで、よく見られる形態です。</p>
⑦	<p>学校全体での学習・・・・・・全校で集まります。朝会や集会などの形態です。  <b>【配慮】</b> 見通しがなく、集団の中にいることが苦手な場合があるため、最初は遠くから見るという参加の形もあります。</p>
⑧	<p>縦割り（異学年）の学習・・・・・・遠足等の行事のときによく見られる形態です。  <b>【配慮】</b> 役割を明確にしていくことで、参加しやすくなります。</p>



★1 単位時間の中でも、いろいろな指導形態を組み合わせる等、柔軟に考えていくことが必要です。